

| | |
|-------|---|
| 研究課題名 | 急性大動脈解離患者における入院中の大腰筋面積の変化 |
| 実施責任者 | リハビリテーション部 技師 恒川裕気 |
| 研究の概要 | 急性大動脈解離の手術・保存療法では合併症や体力低下や骨格筋量の減少を予防することが重要とされ、日本循環器学会ガイドラインに沿った早期からリハビリテーションを実施することが推奨されている。具体的には、出来るだけ早く身体を起こして座位時間を確保し、早期の歩行へとつなげる。このような早期のリハビリテーションにより、可能な限り体力を維持することが重要である。当院では、安全を確認した上でガイドラインに示されている基準を用いて早期からの歩行開始を試みている。そこで、本研究の目的は、computed tomography 画像で算出した大腰筋面積を用い入院中の骨格筋量の変化について調査することである。 |
| 実施の期間 | 西暦 2015 年 4 月 1 日より 西暦 2022 年 3 月 31 日まで |
| 研究対象 | 名古屋掖済会病院で急性大動脈解離の手術・保存療法中に、リハビリテーションが実施された方。 |